

あなたの大切な人の命を守るために

これより、AED講習会が始まります。講師の先生は、熊谷消防署から〇〇様・〇〇様お2人にご来校いただきました。この講習会は、熊谷市が実施している「『暑さ対策』地域へ発信！中学生サポーター事業」の一環です。

今から12年前、さいたま市の小学校6年生の桐田明日香さんが、駅伝大会に向けての放課後練習中に倒れてしまうという事故が発生しました。しかし、その場で指導していた先生方は「脈がある」「呼吸がある」ととらえ、心肺蘇生やAED装着は行いませんでした。このような判断は、とても難しいことだと言います。実際には、普段通りの呼吸はありませんでした。到着した救急隊が心肺蘇生を始めるも、本当に残念なことに、大切な命は失われてしまいました。倒れた段階で、すぐに適切な対応をしていれば…という思いは当然あります。この事故を契機に、普段通りの呼吸が「ない」「わからない」場合には、心肺蘇生を行い、AEDが到着したら電源を入れ、AEDの指示に従い操作することなどを分かりやすく示したテキスト「ASUKAモデル」が出来上がりました。事故後の5年間では、事故前の5年間と比べ、さいたま市内の教育施設等におけるAEDの使用件数は13倍にも増加したそうです（3件→39件）。その後も、「ASUKAモデル」はさいたま市にとどまらず、県内・全国に広まっていきました。明日香さんは救えなかったけれど、明日香さんに救ってもらった人はたくさんいるのだと思います。

校長室には、皆さんの命を守らなければならないとの思いから、AEDに関するポスターを掲示しています。このポスターには次のような言葉が添えられています。

「頭が真っ白になることを前提に、AEDはつくられている。」

「AEDを動かすのは勇気じゃない。知識だ。」

このあと、実際にAEDに関わる体験的な学習を行います。この学習で得た知識は、将来にわたって皆さんの財産であり続けると思います。いざという時には、皆さんにとって大切な人の命を守ることもできます。大切な人の命を守るためにも、しっかりと学習に臨んでください。